

## 2010 年度第 2 回日本語教育巡回研修会：報告

今回の研修会では、名古屋大学留学生センター准教授の衣川隆生先生を講師にお招きし、「自律学習能力の育成を図る教室活動ーモニタリングと自己評価の基準確立を目指してー」というテーマでご教示いただきました。

日 時：(台北会場) 2010 年 8 月 24 日(火) 10:00~17:00  
(台中会場) 2010 年 8 月 25 日(水) 10:00~17:00  
(高雄会場) 2010 年 8 月 26 日(木) 10:00~17:00

参加者：台湾の日本語教育関係者 (台北) 26 名 (台中) 33 名 (高雄) 29 名

配付資料：ワークショップ 1, ワorkshop 2, ワorkshop 3。  
(PDF ファイル：Acrobat Reader が必要です。)

まず、午前のワークショップ 1 では、4 つの課題が行われました。①研修会受講の動機・到達目標・取り組み方を考えてキーワードを書き出し、②それを 3 回相手を変えて順に説明し合う。この時、3 人の聞き手はそれぞれが指定通りに異なる聞き方をする。③今度は面接試験形式で行い、①のメモを修正して受験者、面接者、評価者に分かれ、評価者は面接中に受験者の話のメモを取り、それをもとにコメントし合否判定をする。④課題①~③について振り返り、①と③のメモの変化と理由、②の相手による話しやすさの違い、③の評価者役での発見や気づきなどについて話し合い、キーワードを書き出し、共有する。

これらの活動は、研修参加者に自律学習の過程[意識化→計画→遂行→評価→再計画→再遂行→再評価...]を体験から理解しやすくさせるためのもので、続く講義 1 では、「自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価できる能力(青木 2005)」と言われる自律学習能力の育成を図るために必要となる、自律学習の各段階で必要な能力とその訓練法が、実際の授業実践例と共に詳しく解説されました。

午後のワークショップ 2 では、わかりやすくメモが取りやすい発表のための 5 つの課題が与えられ、自律学習の遂行段階で遂行中に行われるモニタリングと、評価段階での自己評価のための基準(各人の能力に応じて千差万別)設定に関する練習が行われました。続く講義 2 では、モニタリングと評価の基準が確立していることが自律学習には必須の要件となることとその訓練法や留意点などが、実際の授業実践例と共に詳しく解説されました。そして、背景・興味・ニーズも異なり、語彙・文法などの知識とその活用能力も異なる学生が混在するクラスにおいて、同一の到達目標を設定し同一の学習・練習を行うことが現実にそぐわないのは明らかであり、画一的な到達目標のコース学習中心のコースデザインから個人カリキュラムを中心にした学習の個性化へ転換する必要がある、そのためには自律学習能力の育成が不可欠となると説かれました。

最後のワークショップ 3 では、2 つのワークショップ体験に基づいて、自律学習能力の育成を目標とする教室活動がグループごとに検討、発表、共有され、閉会となりました。

以上のように、今回の研修会は、先にワークショップ体験をしてからそれに関する解説を含む講義が行われるという、通常とは逆のパターンで進めることによって難解な事柄も理解しやすくなるよう配慮されたもので、終了後のアンケートでは「グループワークが良かった。勉強したことの確認ができて、新たな気づきもでき、メンバー間の意見交換で得るものが多かった。」「授業の流れ、ディスカッションの時間のコントロールが良かった。教室活動のデザインまで進められていい体験になった。」などの好意的な感想の他、「大変興味深かった。」「とても勉強になった」などの声も多数寄せられました。

衣川隆生先生



研修会の様子（台北）



研修会の様子（台中）

